

行き場を失った人が寄り添った

俳優の渡辺謙さんの事務所が発表したタボス会議でのスピーチ（英文）の日本語訳要旨は次の通り。

初めまして、俳優をしております渡辺謙と申します。まず、昨年の大震災の折に、多くのサポート、メッセージを頂いたこと本当にありがとうございます。皆さんからの力を私たちの勇気に変えて前に進んでいこうと思っております。

私はさまざまな作品の役を通してこれまでいろんな時代を生きてきました。それぞれ時代にはその時代の価値観があり、人々の生き方も変化していきました。私はその時代の生き方を学ぶことによって日本という歴史を学ばせていただいたのです。それから日本にはさまざまなことが起こりました。長い

渡辺謙さんスピーチ要旨

戦争の果てに、荒れ果てた焦土から新しい日本を築く時代に移りました。

しかし私が俳優という仕事を始めたところから、今までの30年余り、社会は激変しました。携帯電話、インターネット、本当に子供のころのSF小説のような暮らしが当たり前のようになっているようになりました。

物質的な豊かさは飽和状態になってきました。文明は僕たちの想像をも超えてしまっただけです。

そんな時代に、私たちは大地震を経験したのです。それまで奇麗で多くの幸を恵んでくれた海は、多くの命をのみ込み、生活の全てを流し去ってしまいました。電気は途絶え、携帯電話やインターネットもつながらず、人は行き場を失いました。

そこに何が残っていたか。何も持たない人間でした。しかしそこには人が人を救い、支え、寄り添う行為がありました。

それはどんな世代や職業や地位の違いも必要なかったのです。それは私たちが持っていた「絆」という文化だったのです。

絆。漢字では半分の糸と書きます。半分の糸がどこかの誰かとながっているという意味です。困っている人がいれば助ける。おなかをすいている人がいれば分け合う。人として当たり前な行為なのでした。

そこにはそれまでの歴史や国境すら存在しませんでした。多くの外国からの支援者たちが同じようにやってきてくれました。絆は世界ともつながっているのです。人と人が運命的で

強く、でもさりげなくつながっていく絆は、全てが流されてしまった荒野に残された光だったのです。

今日は、少しずつ震災や津波の傷を癒やし、その絆を頼りに前進しようともがいています。

私たちは今まで、国は栄えていくべきだ、経済や文明は発展していくべきだ、人は進化するべきだ。私たちはそうして前へ前へ進み、上を見上げてきました。

しかし度を越えた成長は無理を呼びます。日本には「足るを知る」という言葉があります。自分に必要な物を知っているという意味です。人間が一人生きていくための物質はそんなに多くないはず。こんなに電気に頼らなくても人間は生きていけるはず。

「原子力」という、人間が最後までコントロールできない物質に頼って生きていく恐怖を味わった今、再生可能エネルギーに大きくかじを切らなければ、子供たちに未来を手渡すことはできないと感じています。

私たちはもっとシンプルでつつましい、新しい「幸福」というものを創造する力があると信じています。がれきの荒野を見た私たちがだから、今までと違う「新しい日本」が作りたいたと切に願っているのです。今あるものを捨て、今までやってきたことを変えるのは大きな痛みと勇気が必要です。

しかし、今やらなければ未来は見えてきません。心から笑いながら、支え合いながら生きていく日本を、皆様にお見せできるよう努力しようと思っております。そしてこの絆を世界の皆様ともつないでいきたいと思っています。